

モデル経営体名：株式会社壽農園（鴻巣市）

展開：土地利用型作物の生産効率化に係る展開

経営概要 21ha（水稻18ha、小麦4ha、大豆1ha）  
うち実証面積 水稻0.6ha、小麦0.6ha、大豆0.26ha

導入技術①自動操舵システム・トプコン・X25AUTOSTEER-SET-KA

②は種機・GreatPlains・3P606NT

③乗用管理機・クボタ・FT250ZFMQME



実証の状況

①実証内容：

既存のトラクタに自動操舵システムを装備し、小麦及び大豆を対象に精度の高い不耕起は種を行い、作業時間及びは種量等の削減を図る。

また、自動操舵システムを装備できる最低地上高の高い管理機を導入し、従来車高の低いロータリ耕で対応していた除草作業との作業効率の比較検討を行う。

②実証状況：

(1) 小麦（は種量 7kg/10a、施肥量 窒素成分8kg/10a）

自動操舵なしでは重複分として、は種量が0.9kg/10a、施肥量が1kg/10a増えた。

	①自動操舵・不耕起区	②自動操舵なし・耕起区
は種時間	12分/10a	16分/10a
稲わら排出時間	20分/10a	—
耕耘・碎土・均平	—	108分/10a



(2) 大豆（は種量 7.8kg/10a、施肥量は窒素成分3kg/10a）

自動操舵なしでは重複分として、は種量は0.4kg/10a、施肥量が0.15kg/10a増えた。は種時間は、自動操舵システムを活用した時としない時で違いは見られず作業時間17分/10aだった。乗用管理機による除草作業は雨天により今作は未実施。

③モデル経営体の感想：

自動操舵システムによる作業は、正確性が増すだけでなく、作業中の後方確認時にも曲進の心配がないので、ストレスなく作業を行うことができ、作業を通して体を感じる疲労度が少なかった。作業時間はは種以外に不耕起は種では稲わら排出の時間がかかったが、対照区では種前作業（耕耘・碎土・均平）時間と比べ、かなり削減できた。